

～『人間がAIのような勉強をしていませんか?』～2年学年通信より



2017年11月6日(月)「山陰中央新報」

12月2日発行の2年学年通信第5号で、左の新聞記事から次のような問題提起を生徒にされていました。以下は学年通信からの引用です。

そんな中、私は関西大学の森朋子教授の一言を思い出しました。10月20日(金)に本校に来校され、教員に向けての講演の中で話された、『人間がAIのような勉強をしていませんか?』という一言に衝撃を受けました。みなさん、AIが得意としていることは何だと思えますか。AIは、たくさんの情報を記憶し、瞬時に関係する事柄を抽出することを得意としています。記憶力や計算能力などでは人間はAIに勝つことができません。そのため、そうした能力が活かされるような仕事は今後AIが担っていくことになると思います。では、私たち人間がAIに勝る能力は何なのでしょう? それは、“感性”や“創造”といった新たな目的や価値を生み出す力であり、私たちが学習を通して鍛えていくべき力は“思考力・判断力・表現力”と言われています。そのために、既に高校入試が変わり、これから大学入試も変わろうとしているのです。いま、時代が大きく変わろうとしています。この時代の流れに取り残されることなく、私たちが時代を先導していきたいものですね。

最後にお尋ねします。みなさんが取り組んでいる学習はどうでしょうか。AIのような学びになっていませんか? 記憶や計算では、AIには勝てませんよ。

このことに関連し、中央教育審議会(平成28年12月21日の第109回総会)答申でも次のよう述べられています。
～幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について より～
「第2章 2030年の社会と子供たちの未来 (予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる)」

…21世紀の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増していく。こうした社会認識は今後も継承されていくものであるが、近年顕著となってきているのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきていることである。…

このように、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない。

しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に入り交った環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このために必要な力を成長の中で育んでいるのが、人間の学習である。解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続きを効率的にこなしたりすることにとどまっていはいけな。直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのが重要である。さらに、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付けることが重要である。また、このような学習により、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくようにすることも重要である。



「今、学校にご理解いただきたいこと」(平成29年3月23日付、島根県教育庁教育指導課)より抜粋

島根県教育委員会は、「島根の子どもたちに身につけてもらいたい力」とは、これからの変化の激しい社会の中で生き抜いていく力、すなわち「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力」のことでありと考えます。

平成29年度「教育課程実践モデル事業」実践研究校中間報告会 及び 研究授業 <2次案内抜粋>

1 期 日 平成30年1月25日(木) 13:15~16:55 [受付12:50~13:10]

2 日 程 (1) 研究授業 13:15~14:05

・数学Ⅱ(2年文系:手銭 隆志 教諭)

(2) 授業研究 14:15~15:05

・授業者による振り返り ・研究協議 ・運営指導委員(御園 真史 氏)による講評

(3) 中間報告 15:20~16:50

・実践研究についての中間報告及び協議 ・運営指導委員による講評 など

(4) 閉会行事 16:50~16:55

※当日は、3~4限目に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した他教科の授業実践の公開も行う。

この中間報告会に向けて、本校の「教育課程モデル実践事業」が何を狙っているのか、再度確認しました。

○教育方針

高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で、人間性豊かな人材の育成をめざす。

○目指す学校像

生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校

○育てたい生徒像

自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒

○教育目標実現に向けた本年度の重点目標 *関係部分抜粋

自己の未来を切り拓いていく力を向上させる(向かっていく学力)

・自ら学びを取りに行く主体的学習者の育成 ・授業改善と学び続ける教師の姿の実践

○本年度の重点課題 *関係部分抜粋

生徒の主体的な学びの育成

共通の目標・・・授業改善の理解

2つの問い・・・「発問」と「作問」

授業改善+課題+土曜講座+ETC・・・生徒の多層化に対応した充実度を高める

AL型授業、ICTの活用・・・自分なりの考え方、型の構築を図る

積極的に研修会、学習会等に参加をしていく

○研究主題 これからの社会において自立した主体的な学習者を育てるために

~次期学習指導要領に向けた授業改善と新テストへの対応を通して~

○本事業を通じて育てたい生徒像

「学力・社会力・人間力の備わった生徒」

○本事業1年次(今年度)の具体的な生徒像

「生徒同士でお互いに質問し合うような力を身につけ、対話的な学びによって理解が深まり、そうした良い意見を主体的に考え、活動できる力を備えた生徒」

○本事業1年次(今年度)の共通目標<評価基準>

- ① 互いに質問し合う力をつける
- ② 対話的な学びにより理解を深める
- ③ 主体的に考え、活動できる力をつける

○本事業における各教科の手立てとつけたい力

国語 協同学習(ジグソー法) 論理的思考力

自ら発見した課題を粘り強く考え、多様な他者との関わり合い、協力して解決する力の育成

英語 ディベート 批判的思考力

- ① 証拠に基づいて論理的に考えること
- ② 自分の思考を意識的に吟味すること(メタ認知)
- ③ 質問すること。情報収集すること

数学 協同学習(グループ学習) 論理的思考力

自立 合理的に判断する力

協同 多面的視点や複数解法などからグループの最善解を作り出す力

創造 既得した知識・技能を活用し、グループごとに新たな問題を作成する力

★いずれも共通して、自分の考えや意見にエビデンス(根拠)を持つ力が弱く、そのことが自立した主体的な学習者になる上での課題となっている。その課題を本事業を通じた授業改善等で克服していく。

★本事業の設定で参考にしたこと

- ・現行の学習指導要領の各教科の目標
- ・中央教育審議会答申
- ・県教委作成「平成28年度各教科にお伝えしたいこと(高等学校版)」
- ・各教科の成績、スタディサポート、模試等の分析